

## 大草谷津田いきものの里 自然観察会

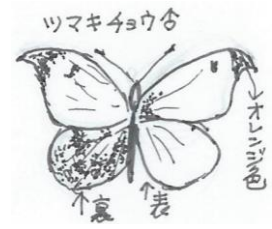
### 白いチョウはモンシロチョウ？

太田慶子（千葉市）

日 時：2014年4月20日（日）10：30～12：00 天候：曇り

参加者：16名（大人11名、子ども5名）

担当指導員：太田慶子・山下美佐子



「いきものの里」ができて9年目のスタートです。「最も多様な生き物が見られるのは昔の里山のようなところであり、特に千葉市あたりでは谷津田と呼ばれるところ」なので、この「いきものの里」ができたと説明。

この日のテーマについては、前日から最高気温が14℃にしかならないとわかっていたので、最初に、<虫は変温動物（気温がそのまま体温になる）なので、気温が低いと活動できない。従って、今日はモンシロチョウどころか、チョウそのものが見られない可能性が高い>と話したように、最初からチョウが飛びそうもない肌寒い日だった。ただ、このテーマを設けたのは、<モンシロチョウの他にこの4月頃に見られる、一見モンシロチョウに見えるチョウが他に何種類かいることを知らせたかった>からで、この時期モンシロチョウに似たチョウとして<スジグロシロチョウ、ツマキチョウ、モンキチョウの♀（関東周辺）、あるいはウラギンシジミ>がいると、イラストを見せながら説明した。また、モンシロチョウとツマキチョウの標本（冷凍したものを透明な袋に入れたもの）も見せた（透明袋なので裏側もよく見える）。更に説明として、モンシロチョウなどは年に何回も卵を産んでチョウになるので、いつも飛んでいるチョウはモンシロチョウだと思ってしまうのだろうが、ツマキチョウは春に一回しか羽化しないので今しか見られないと話す。

そのツマキチョウ、集合広場は南向きで暖かく、集合直前にお子さんが見た白いチョウはツマキチョウらしい。まだ説明しているときにも、ツマキチョウが1頭、木の上の方に止まり、それが予想通り、今日唯2つ見られた白いチョウとなってしまった。

今回はシオヤ・シオカラトンボの羽化直後が見られ、参加者の印象に残ったようだが、「翅に体液が行き渡るまで、絶対に触ってはダメ。触ると翅がおかしくなって飛べなくなる」と話して、見守ってもらった。

お子さんが「カエルの声がいっぱいする」と言う。ちょうど、シュレーゲルアオガエルがいい声で鳴いている時期。もうすぐ、泡で包まれた卵が産まれると話し、田んぼで見られる黒い小さなオタマジャクシ（アズマヒキガエル）と、薄茶色の一回り大きなオタマジャクシ（ニホンアカガエル）について説明。

民家そばの暖かい草むらでは、子ども達がいい目でヤマトシリアゲやヤブキリの幼虫などを見つけてくれたが、今回は、特にトンボの羽化とオタマジャクシが参加者の印象に残ったようだ。



ヤブキリの幼虫

感想に「気温によってチョウが飛んだり飛ばなかったりすることがわかった」とか、「チョウが飛ばなくても、たまにはこういった自然の中に浸るのもいい」と言ってもらったので、終わりの頃には12℃にしかならなかった観察会も、これも自然、まっ 仕方ない。